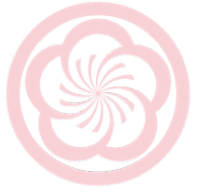

婦人会報

令和六年
5 月 2024 年
立教187年



天理教婦人会旭日支部

通巻539号



天理教婦人会第一〇六回総会

婦人会長様ご挨拶 (要旨)

日々は、お道の御用の上に、とりわけ教祖百四十年祭、年祭活動の中、持ち場立場のつとめを懸命におつとめ下さりまして誠にご苦労様でございます。

◇ ご承知のように、本年の元日に能登半島地震が発生しました。大変な中をお帰り下さった方もおられると思います。心よりお見舞いを申し上げます。私たちは、被災された方々の平穏な生活と、被災地の一日も早い復興を願い、おつとめを真剣につとめると共に、そのご守護をいただくためには、道を信仰する私たちはどのように日々を通らせていただいたらいいのかを考えて、実行することが大切だと思います。天災は親神様の残念立腹の表れであると聞かせていただきます。残念な思いをおかけしているところを思案し、しつかりと肝に銘じて、年祭活動二年目を歩ませていただきますから、しばらく思いますが、お聞きいただきますしたいと思います。

◇ 教祖の年祭をつとめる意義は、道を信仰するものが、親の思いに近づく成人を目指す努力を重ね、少しでも成人した姿を教祖にご覧いただき、お喜びいただきたいということ。親神様は遙か遠い昔、泥海だけが広がる世界を見て味気なく思われ、人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと思召されて、人間とこの世界をお造り下さった元の神様であり、それ以来ずっと人間の身の内と自然界の全てをご守護下さる実の神様でございます。

◇ 天保九年十月二十六日、月日のやしろとなられた教祖は、人間がそれまで聞いたことのない親神天理王命の存在と、その思召をお伝え下され、五十年という長い年月をかけて、お側の人々をお育てになり、つとめを教え、さづけをお渡し下さって、たすけ一条の道をおつけ下さいました。又、御自ら艱難辛苦の道をお通りになられて、陽気ぐらしへのただ一条の道

であるひながたの道をお示し下さいました。

そして明治二十年陰暦正月二十六日、ごどもの成人を急ぎ込まれ、定命を二十五年縮めて現身をお隠しになられましたが、今も尚、存命の理をもつて、世界たすけの上にお働き下さり、私たちをお導き下さっているのです。ですから私たちは、その教祖の親心にお応えさせていただけるように、望まれる成人の姿とは何であるのかをよく考えて、少しでもその姿に近づき努力をすることが道の子のあるべき姿でございます。特に三年千日と仕切つとめる年祭活動は、そのことを強く意識して教祖のひながたを目標に教えを實踐して、成人の歩みを進める時でございます。

◇ 本年も婦人会の成人目標は変わらず、◎ひながたをたどり、陽気ぐらしの台となりましょう

と掲げております。活動方針は、昨年と同じく、

・教祖百四十年祭に向かつて、育つ努力、
育てる丹精に徹しよう

一、元なる思召を伝え広めよう

一、老いも若きもおたすけの喜びを

味わおう

でございます。

ひながたをたどるといふことは、教祖が教えて下さったことを素直に実行することだと思ひます。教祖がひながたを通して教えて下さった、肝心の一点は、元の神、実の神である親神様を一筋心で信じ、人間思案を捨て去つて、思召に沿う心を定めて、素直に実行すれば、人間の力では考えられないような不思議なご守護を下さるという真実でございます。なぜなら、人間世界を創造された親神様は全人類の親であり、世界一列の子供をたすけたい一条の心でお導き下されているからでございます。

◇

明治二十年陰曆正月二十六日、おつとめをつとめることを急ぎ込まれる教祖と、つとめれば警察へご苦労下されることになる教祖のご身上を案じておつとめを躊躇される初代真柱様との間で、押し問答が繰り返されますが、最後にはお言葉に従う決心をなさつて、命捨てても言う覚悟の

者はつとめに出るようにと言い渡され、おつとめをつとめられました。不思議なことに、この時は最後まで何の妨害もなくおつとめをつとめることができました。これは人間思案を捨てて、教祖のお心に素直に沿いきつた結果、不思議なご守護をいただいた姿であり、教祖のひながたから学ばせていただく重要な点であると思ひます。

◇

私は陽氣ぐらし世界の実現についても同じことが言えると思ひます。子供の頃、親神様は世界中の人間が互いに立て合いたすけ合つて仲良く楽しく暮らす様子を見て共に楽しみたいと思われて、人間とこの世を造つて下さつたと聞かせてもらい、いかさういふ日が来るのだと漠然と信じていました。年を重ね、様々な知識を得るにしたがつて、そんな日は来るはずがないという人間思案が強くなつてしまふようなことでございます。特に今、世界中の現状を見聞きすると、親神様が望まれる陽氣ぐらし世界を実現することは無理なのではないかと思つてしまいます。しかし、私たちお道を信仰するものは、元の神、実の神である親神様から、元の理を聞かせていただいています。これは絶対に間違ひのない真理で

あります。そして教祖はどうすれば陽氣ぐらしができるのか、歩むべき道を教えて下さつています。また、たすけ一条の道として、つとめを教え、さづけをお与え下さつて居るのです。それを聞かせていただく私たちは、その教えを信じ切つて、陽氣ぐらし世界実現のために努力をさせていたたく決心をし、おつとめを真剣につとめ、おさづけを取り次いで、親神様の思召を一人でも多くの人に伝えなければならぬと、今のこの世の中の現状だからこそ強く感じるのでございます。

◇

人間は、我が身が可愛い、自己中心的な心を誰もがもつていると思ひます。しかし、それが強いと、いさかひや争ひの元になつてしまいます。教祖は、八つのほりとして自己中心的な心遣いを戒められました。世の中の事件やいさかひ・戦争も、自分さえ良ければいい、人はどうなつてもかまわぬという自己中心的な心遣ひが顕著に現れた姿だと思ひます。教祖は心のほりを払い、心を澄ますようにお教え下されました。陽氣ぐらしを説明するときに、互いに立て合いたすけ合ふという言葉を使ひます。たすけ合ひは言うまでもありませんが、立て合ふということも大変重要だと思ひるので

す。立てるといふのは、相手を尊重すること、相手の立場になつて考え、思いやる心、更には、人のために尽くすことだと思ひます。これは自己中心的な考えとは反対の心遣いですから、陽気ぐらし世界には欠かせないことだと思ふのです。

◇

一人の人間の力は小さいものです。にいがけおたすけも一人対一人ですから、世界中の人に教えを伝えることは気が遠くなるような時間がかかります。言うまでもなく陽気ぐらし世界の実現は親神様のご守護を頂戴してはじめて成つてくるものでございます。その上そのご守護をいただくためには、私たちの相当な努力が必要だと思ひます。それは信仰する全ての人が、親神様、教祖を信じ、もたれきつて、教祖から教えていただいていることを素直に実行することで、その眞実をお受け取り下さつて、陽気ぐらし世界実現の上に自由のご守護を下されると信じます。とはいへ、陽気ぐらし世界はまだまだ先のことになります。その日が来ることを疑わず、信じて、私たちは精一杯の努力をして、次へ繋いでいく使命があります。私たちがでなく、今おられる信者さん

信仰を始めたばかりの方、そうした方たちも、自分の信仰を次へ繋いでくれるように心を尽くしていかなければ、いつまでたつても陽気ぐらし世界は実現できません。教会長・委員部長の皆さんが教会に繋がるようばく・信者の方々に。元の理を聞かせていただくお道の者は自分一人が信仰すればいいのではなく、家族に、子や孫に、一人でも多くのの人に教えを伝え広めることが重要なだと得心していただき、それを実行してもらへるまで育てさせていただくことが、一番肝心なのでございます。その努力を、いつもどの時代も道の子みんなが続けていくことが、親神様のはかり知れない大きなご守護をいただく、ものだねになると思ふのでございます。

◇

おふでさきに、

せかいちうどの人でもをなち事

いつむばかりの心なれとも

これからハ心しいかりいれかへて

よふきづくめの心なるよふ

月日にわにんけんはじめかけたのわ

よふきゆさんがみたいゆへから 十四号25

せかいにハこのしんちつをしらんから
みなごともいつむばかりで 十四号26
とあります。

まず、親神様の教えを聞かせていただいている私たちが、陽気づくめの心で教祖のひながたを素直にたどり、自分自身の心の成人を目指して、進んで教えを学び、実行して、信仰信念を培い、徳を積ませていただきましょう。そして、我が子や身近な人に教えを伝え、元なる親の思召を知らず、心が沈み、勇めずにいる世界中の人々に、早く教えが行き渡るよう、自らが積極的、に動くようばくに育ち、人を育てましょう。生み育ての徳分をいただく女性が、温かい心でつなぎの特性を發揮して、にいがけおたすけに励み、共に年祭活動に動いて下さる人を増やしていくことを今日ここにお誓ひして、勇んで年祭活動をつとめさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございます。



参加された皆様の声



総会に参加させていただいて、真柱様のメッセージ、会長様のお話を聞かせて頂いて、少しでも成人できるよう勇んで三年千日二年目を通らせて頂きたいと思いました。



教祖百四十年祭三年千日のこの旬に、日々ご守護に感謝して、自分自身の心の丹精に努力させて頂き、人に寄り添い、道の台として努めさせて頂きたいと思いました。

天理教婦人会 第106回総会

2024. 4. 19

年を重ねるごとに女性としての役割をたくさん感じる事が多いです。まずは私たち女性が陽気に笑顔で優しい気持ちを持って通らせて頂くこと、そのために日々努力を重ねることが大切なのだと言一度心に治めさせて頂きました。

世の中に起こってくる天災、地震や戦争がこれ以上ひどくならないように、私たち一人ひとりが婦人会員としての自覚を持って、一人でも多くの人にお道の教えを伝え、陽気世界の実現に少しでも近づけるようお互いに立て合い、助けあい成人させて頂きたいと思ます。



素直な心で親の思いに近づけるよう一日一日人様に喜んで頂ける日々を通らせて頂きます。



日々心のほこりをはらい、心を澄ましてたすけ一条の道を歩ませて頂きたいと思ます。親神様、教祖に喜んで頂けるよう努力させて頂きします。



限りなく頂いているご守護に日々感謝しています。喜びを子どもや孫、近くの方に話をさせて頂きたいと思ます。



女性の特性を生かし、出来ても、出来なくてもたんのうの心を定めて教えて頂いている事を実践していこうと思ます。

2024年度 婦人会旭日支部女子青年

女子青年委員長
副委員長

秋田育代（直轄）
松田十和（旭松山）

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、今後の女子青年活動が以下のように決まりましたので、お声かけをいただき活動の輪が広がりますようお力添えをお願いいたします。

女子青年係 山崎さとえ 森下由紀子 村井みちよ

日 時	内 容
5/3（金）	こかん様に続く会
6/30（日）13時～15時	例会
7/27（土）～8/4（日）いずれか	こどもおちばがえりひのきしん
8/11（日）13時～15時	例会
9/15（日）13時～15時	例会
10/26（土）13時～15時	例会
11/30（土）～12/1（日）	例会（旭日支部総会ひのきしん）
12/8（日）13時～15時	大教会大掃除

毎月、24日の月次々祭典後、育成室にてコーヒーショップのひのきしんをさせていただいております。

皆さん、是非お立ち寄りください。

また、ひのきしんをして下さる女子青年を大募集しています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



六月例会案内

日時 六月五日(水) 午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭
 お願い
 お願い
 ておどり(後半下り)
 おふでさき拝読
 お話(おふでさき 第十四号より)

昼食
 大野美委員部 木村昌子

第2回:立教187年6月1日(土)2日(日)

会場毎に開催日・開催時刻が異なりますので、「教区・支部情報ねっと」から該当支部の情報をご確認の上ご参加下さい。



天理市支部は、6月1日(土) 9時30分から第二食堂。13時30分から旭日会場となっております。



六月例会役割

扨者	山村 美恵	坂本みさ子
賛者	松田よし子	岩崎 千鶴
指図方	山崎さとえ	
地方		後半
笛		
ちゃんぽん		
拍子木		
太鼓		
すり鉦		
小鼓		
琴		
三味線		
胡弓		

五月月次祭炊事当番

教会	櫛本	神菅
係員	奥田富美恵	岩崎友輝恵

◇午前九時までにエプロン三角巾を持参の上お越し下さい。

五月月次祭託児ひのきしん当番

教会	西紀	
係員	南本のぞみ	

◇午前九時十五分より祭典終了までです。



先々の理を楽しむ

先々の理を楽しむ〜。

治めりや治まる。治めりや治まるまで。

(おさしづ 明治27年5月12日)



発行日 令和六年五月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部